

国際科学オリンピック 初のリモート開催

～国際生物学オリンピック2020長崎大会は
IBO Challenge 2020に～

毎年夏に計31人の高校生らが派遣されている国際科学オリンピック。2020年は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、7大会のうち物理、地学、地理は中止に、数学、化学、生物学、情報は急きょリモート開催となりました。

第31回国際生物学オリンピック2020長崎大会(IBO2020)も、「IBO Challenge 2020」と名称を変え、大会史上初めてリモートで開催されました。

～新たなステージに入った国際大会～

IBO2020組織委員会の浅島誠委員長は「世界の同世代が競い合う機会を無くしてはならないという関係者の強い思いが、ウェブ環境の違いや、試験の公平性をいかに保つかといった課題を乗り越え、リモート開催を実現しました。新しい教育スタイルの提案につながったと思います」とリモートでの国際大会で見えてきた可能性を語りました。

53の国と地域から202人の生徒が参加した中、日本代表生徒は金メダル1、銀メダル3と、4人全員が好成績を残しました。



浅島 誠 先生

(東京大学名誉教授)
第31回国際生物学
オリンピック2020

長崎大会 組織委員会 委員長

～リモート下でも国際交流を実現～

金メダリストとなった栄光学園高等学校3年の末松万宙さんは、「貴重な体験でした。実際に器具を使う実験試験がないのは残念でしたが、国際交流の代わりとして参加する『国際グループプロジェクト』が楽しみです」と大会参加の感想を述べました。

競い合うことと同様に、科学オリンピックで重要なのが国際交流です。リモートという条件下で新たに企画された「国際グループプロジェクト」では、国籍の異なる4人の生徒がグループを組み、大会OB、OGの学生によるファシリテーションの下、感染症、生物多様性と海洋、ゲノム編集、進化から選んだ1テーマについて約2カ月間リモートで議論した後、ポスター発表をしました。



IBO2020 日本代表の4人